

福岡市PTA協議会研修会 「子どものネットとケータイを考える」

■基調講演 1

「デジタル化で変わる教育」

慶応義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授 中村 伊知哉氏

現在、ケータイやネットは生活や学習に欠かせないツールとなっている。ある調査で高校生にあなたにとってケータイとは何？と尋ねたら、「命の次に大切なもの」「守り神」「家族」の答えが返ってきた。ケータイを使ったネット利用では、日本は世界一の先進国。ですから、いま起きている問題の解決策は、外国を模倣しても見つかりません。

数年前、子どもにケータイは不要であり、「百書あつて一利なし」といわれましたが、所持率は急増を続けました。そこで、2008年に「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」が制定され、青少年に販売するケータイには、有害情報への接続を制限するフィルタリング機能が義務づけられています。子どもの教育にモバイル端末を活用

■基調講演 2

ケータイ、インターネットは『禁止』から『教育』への変革を

ネット教育アナリスト 尾花 紀子氏

今、ケータイを使った大学入試問題の流出で大騒ぎとなっていますが、過去にはアルバイツ生が有名カッパの来店をツイッターで告知した例や、司法修習生が取り調べ内容をブログに書いた例などもありました。

なぜ、こうした騒ぎが頻りに繰り返されるのでしょうか。それは、デジタルが当たり前の時代に生まれ育った若者世代は、人としての経験や社会的常識などが未熟なうちに、デジタルツールを使い始めてしまっているから。人生の中でデジタルが普及してきた大人の世代は、ネットやケータイは社会的規範を踏まえて使うのが当然だと思っただけで、子どもたちに正しい使い方を教える必要性に気がつきません。一方、自己流かつ個人的に使い始めた子どもたちは、自分たちの欠けている部分に気づかず、教えてもらえないことに疑問を抱いていないのです。

このギャップを埋めるには、ネットに関する話題を耳聞するたびに親子で、教室で話し合っていくことです。デジタル

「どう使うのか」を学ばせるのが重要

する事例は、世界各国で広がっており、シンガポールでは来年から、韓国は2年後から、小中学生全員にモバイル端末を持たせる計画です。これとは逆に、日本ではケータイを子どもから遠ざけようとしています。ケータイは「百利あつて、一害もある」のですから、その弊害を減らすための対策が欠かせません。重要なのは、子どもたちに「使わせない」のではなく、「どう使うのか」を学ばせること。泳がせないと泳ぎ方を覚えられないのと同じだからです。

これからの子どもはネットを使って学び、遊んでいく新しい情報社会を生きていきます。これが正解だ、という答えは見つからないかもしれませんが、私たちが一緒に議論を深め、子どもとケータイのより良い関係を追求求めていくことが、今こそ必要なのです。

正しい使い方を教えるのは大人の責任

ルツールの正しい使い方、そのリスクとメリット、規範意識を社会に出る前に身に付けさせるのは、身近にいる大人の役割です。昨年の警察庁の調査では、ケータイ利用で犯罪被害に遭った子どもたちのうち、98.5%がフィルタリング未設定という結果が出ています。安全に使うことができる環境を整え、年齢や判断力に応じてフィルタリングをコントロールしていくのは、ケータイを買い与えた保護者の責任です。今年7月から地上デジタル放送がスタートしますが、これはTVがネットにつながることを意味します。ネットに接続するための暗証番号を設定するなど、事前に準備を進めてください。携帯ゲーム機やスマートフォンは、Wi-FiやBluetooth規格のネットにつながるため、注意は不可欠です。これからのデジタル社会を生きていく子どもたちのために、安全な環境づくりを徹底するとともに、正しい使い方へと導くことを常に心がけましょう。

安心できる環境づくりを

気軽で便利なコミュニケーションツールとして定着している携帯電話（以下ケータイ）だが、デジタル世代の子どもたちにとっては、インターネット（以下ネット）に接続して幅広い機能を活用するのが当たり前である。一方、ネット上の有害サイトを通じて子どもたちが犯罪に巻き込まれる事例が急増するなど、その弊害も指摘されている。そこで、子どもたちが安心して利用できるネットとケータイの環境整備を進めるため、福岡市PTA協議会は3月1日、福岡アクロス（福岡市中央区天神）で「子どものネットとケータイを考える」をテーマに研修会を実施した。その概要を紹介する。

■パネリスト スカッシュン

「子どものケータイ！ どう向き合おう？」

曾我 2年前、日本PTA全国協議会がアピールを行ったときから、ケータイ所持率やネット環境も大きく変化しています。どう対応したらよいのでしょうか。勝山 文部科学省としては、小中学校へのケータイの持ち込みは原則として禁止していますが、所持することまでは禁止していません。しかし、子どもたちのケータイ利用の実態が分からないうちに、対策も立てられず、文部科学省ではさまざまな実態調査を行い、それに基づいて啓発活動を進めています。その一環として2011年度には「ケータイモラルキャラバン隊」と銘打った出前事業を全国6カ所で開催する計画です。



曾我 邦彦氏
コーディネーター
日本PTA全国協議会顧問
(前会長)



尾花 紀子氏
ネット教育アナリスト



勝山 浩司氏
文部科学省スポーツ・青少年局青少年課課長



児玉 聡氏
福岡市立吉塚中学校教諭



棚町 佐武郎氏
福岡市立花畑中学校PTA会長



足田 敏明氏
福岡市PTA協議会会長

有害情報から子どもたちを守るために

「とりもどそう 家庭の力」
日本PTA全国協議会では2009年5月に、子どものケータイの利用について、三つのアピールを行いました。それは①原則として小中学生にはケータイを持たせない②持たせる場合は必要な機能に限定したケータイを持たせる③子どものケータイの利用について、親子で話し合っただけでルールを作る、

というものでした。しかし、10年度の文部科学省の調査によれば、小学6年生の約30%、中学3年生の約60%がケータイを持っているという実態であり、ケータイの所持が急速に拡大しているのが現実です。こうした現状を踏まえ、この研修会を契機として、さらに有害情報から子どもたちを守るための今後の対策などについて考え、子どもたちが安心して利用できる環境づくりを推進していきたいと考えています。

勝山 フィルタリングサービスについて十分な説明が行われているかどうかを、全国の携帯電話販



安心ネットづくり促進協議会
安心ネットづくり促進協議会(会長:大阪大学総長 鷗田清一)は、利用者、産業界、教育関係者、有識者などが一丸となってインターネットの利用環境を整え「グッドネット」を推進する組織として、2009年2月27日に設立された非営利団体です。(会員数:204 2011年2月1日現在)
URL <http://good-net.jp>



曾我 邦彦氏
コーディネーター
日本PTA全国協議会顧問
(前会長)

問題点の顕在化は好機 曾我氏
大人が学ぶ機会増やす 棚町氏
子どもの実体験が不足 児玉氏
情報モラル教育を開始 勝山氏
ルールづくりを宿題に 尾花氏
情報教育への尽力が鍵 中村氏

尾花 フィルタリングの普及など以前に比べてネットやケータイの環境は安全になっていると思いません。しかし、ネットの向こう側は、今後どんどん進化して行きますから、百パーセント安全というのは無理だと考えるべきです。だとしたら、いろいろな対処方法を考えながら、子どもたちの情報教育に力を入れることが重要になります。

中村 子どものネット問題は、本質的には家庭や社会が抱えている問題点が顕在化したものと考えられます。逆にチャンスと捉えることもできます。今後も啓発・研修活動をしっかりと続けていきたいと思います。

尾花 学校で子どもたちを見てみると、ケータイやゲームにはまって勉強や睡眠の時間が失われ、家族との会話も減っていると感じられます。ケータイを使った掲示板への書き込みなどから、トラブルが発生するケースもあります。棚町 私が住む地区では、地域の小中学校のPTAが連携し、4年前からTVやゲームに接する時間を少なくする「メディア運動」を展開していますが、その取

組みの中で、親子の対話がいかに大切かを痛感しています。これはケータイでもまったく同じことですね。尾花 いつからケータイを持たせたらいいかと聞かれましたが、家庭環境や子どもの成長具合によって百人百様です。例えば、貸し出し専用ケータイを準備して、使い方を教えるながら少しずつ慣れさせるのもお勧めです。普及はリベリックに置いて、外出やメールなど必要なときだけ使わせ、終われば戻させる。こうすれば親子の会話を伴うオープンな使い方が習慣になるはずですが、不安だからと、子どものケータイを

勝山 新学期指導要領により今年春から小学校で、情報の正しい取り扱い方を学ばせる「情報モラル教育」をスタートさせますが、学校だけで進めるには難しい面があります。家庭でも話し合っただけでは難しいと思います。